

左京西部

いきいき通信

vol. 10

アート×場の良い関係

京都といえば、文化のまち。そして、秋といえば芸術の秋。今回はセンター周辺にあるアートがある場所を探して、「音楽」「ものづくり」「演劇」をテーマに活動されている当センター利用者さんにお話を伺いました。そこにはアートと場のとても良い関係がありました。

秋に開催されたイベント「左京ワンダーランド」。そのイベントの実行委員でもあるキヨシさんは、現在、誰でも出来る音づくり、楽器づくりをテーマに、京都を中心としたことも施設や地域のイベントに向いて「音楽による場づくり」をおこなっている。しかし、キヨシさんは2011年に関東から京都に移り住ん

ズキキヨシ(すずき・きよし)音楽家活動を経て、現在音楽による場づくりをおこなう「おんらく市場」代表。カリンバや鼻笛などの販売、楽器づくりのワークショップ、地域のイベントコーディネートなどをおこなう。また、京都造形芸術大学・子ども芸術学科でも教鞭をとる。



さまざまな垣根を

横断する音楽の力

だいわゆる新参者。知り合いに紹介された人や場所のつながりでトントン拍子で話が進んでこまごまと来たと言いが、キヨシさんのフットワークの軽さと、自然体な人柄が沢山の人の惹き付けてきたというのが分かる。キヨシさんが感じる左

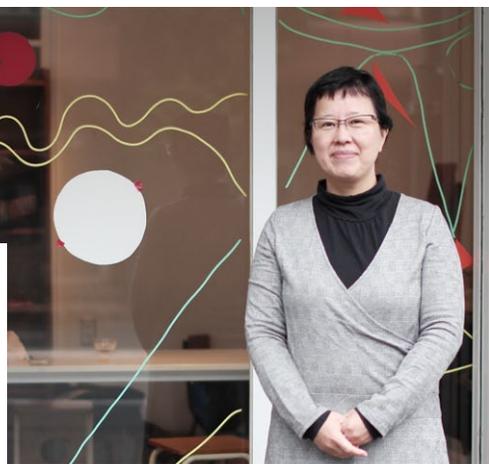


左京ワンダーランドのチラシ。マップに掲載されたお店や施設の、マッピングをめぐるとして、音楽ライブなどを企画。

やりたいことを「やる」だけの創造の場。

郷田英子(ごうだ・えいこ)

アトリエパッチワーク主宰。北山にある雑貨屋「Alphabet」を運営しながら、2013年1月に河原町今出川に、フリースペースとして「アトリエパッチワーク」をオープン。青と白のしましま屋根が目印。



郷田さんは、20年間「もの」を販売してきた。そもそも、バリ島の織物や染物に魅了され、何の手がかりもないまま、雑貨屋を始めたという。現在その雑貨屋は多くの人が訪れ、スタッフを抱えながら運営をされる立派なお店になっている。その郷田さんが、なぜ新しいスペースを持ったのか?理由を聞いてみた。「もともと、お金を儲けるために雑貨屋を始めた訳ではないんです。自分の良いと思うものを伝えたくて。それは今でも変わりません。ただ、貨幣価値に疑問を持ったんです。はじめは物々交換で場所を運営できないかなあと考えてもいました。営利を目的にせず、物事の本質や価値観、世の中の仕組みに疑問を投げかけること。それがアトリエパッチワークという場所を



フリースペースといえど、中は雑貨屋のようなしつらえ。

外へ広がるアートの可能性。

杉山準(すぎやま・じゅん)

NPO 劇研事務局長・副理事長。役者活動を経て1994年より演劇を中心としたワークショップの企画を手掛ける。2000年から2008年まで「アトリエ劇研」プロデューサー。舞台芸術にまつわる各種事業を企画・制作する。



最後は、当センター利用者さんというより、当センターを運営しているNPO劇研の事務局長・副理事長である杉山さん。杉山さんは90年代から演劇に関わりながら、京都の芸術文化を支える活動をおこなってきた。左京区・下鴨にある小劇場「アトリエ劇研」のプロデューサーを経て、現在は当センターや廃校となった元・立誠小学校、過疎化が進む京丹波町でアートによる地域活性化に取り組んでいる。さまざまな場所でもアートの関わりを探ってきた杉山さんにとって、やはり「アートと場の良い関係」について教えてもらった。「アートによるまちづくりに関わって約10年。関わっている場をみると、以前と随分印象も、人も変わってきています。10年と聞くと、とても長く感じるが、杉山さんが大切にしているのは、その場所が自発的に何かがおこなわれていくこと。長い目でまちと寄り添いながら、その場を使って何をするか、アイデアを巡らすことだという。「アートは人と人をつなげる力をもっている。だから地域が持つ課題や、福祉、教育といった様々な分野でも活かすことが可能です」。当センターも来年で3年目に入ろうとする中、これまでに演劇の手法を取り入れ、地域の高齢者と交流を結び「思い出語りの会」や、プロの役者さん等による中学生の演劇講座などを開催してきた。そのような企画をおこなうことで、ある中学校から文化祭でおこなう演劇の指導を依頼されるなど、徐々に関係が広がっている。では、これからの課題は?の質問には「演劇だけでなく、広い範囲でアートと社会をつなぐことができる、人材を育成すること」の答え。いきセンのスタッフが、今後の担い手となる日もそう遠くないのかもしれない。



身の回りのものでつくられた、オリジナルの楽器たち。工夫次第で何でも楽器になる。

を生んでいくようだ。ずっと京都に?の質問には「とりあえず5年は」とあっさり。「音は残らない気楽さがある。だからいつでも、どこでも、だれとでも楽しむ場所ができるんです」と、キヨシさんの音楽(おんらく)活動はあらゆる場所や人の関係を風通しを良くし、豊かで心地よい時間をつくらせてくれるのだ。

京区について聞いてみた。「都会(東京)と比べてここは、身の丈に合った生活をしている人が多くて、メディアに流されず判断してくれる。だから口コミで情報が伝わっていく。それに外国の人も多くて、ここでやっていることがそのまま世界に発信できるイメージができるんです」と、まさしくキヨシさんの活動は、地域や地域に住む人に根ざしている。地域の魅力にいち早く気付いて、人を巻き込みながらプロセスを楽しむことを忘れないう。その姿勢が次から次へと行動

H O M E 『わたしのあいだ』

10月22日・23日に養正市営住宅12棟中庭にて開催された演劇公演

演劇というと、劇場の中に役者が演技をする舞台と観客席があって、その舞台上で何らかの事件や色恋沙汰といった大きな出来事を軸にストーリーが展開されていくものを想像するかもしれませんが。少なくとも私は劇とは、現実とは離れた非日常の世界を描いたものだと思っていました。

『わたしのあいだ』の上演は、私たちが普通イメージするような劇場ではなく、実際に暮らす人びとのいる市営住宅の中庭が舞台でした。そこでは住民の声、ドアを開める音、足音といった生活音、近くを走る叡山電鉄の電車や踏切の音が、たとえ劇の最中であろうと聞こえてきます。こうした状況は普通なら上演の妨げになるのかもしれませんが、『わたしのあいだ』にはどれも必要な要素だったのだと思います。

この劇の筋書きは、ある出来事をきっかけにひとり暮らしを始めた「わたし」という人物のところへ「あなた」という人物が訪ねてきて、何気なくふたり暮らしを始めるというただそれだけのものです。事件らしい事件は起こりませんし、登場人物である「わたし」と「あなた」についても、どこに住んでいるのかとかどんな過去があったのかといった具体的な説明はありません。ただ、その二人の日常が過ぎていきます。いってみれば、「わたし」や「あなた」という登場人物も、二人のいる場所や時代も、観客が自分のことを投影できるような空白になっていました。そうした劇のつくりと、劇場では耳にすることのないリアルな生活音や市営住宅の日常の光景が重なって、この『わたしのあいだ』という劇が成り立っているように感じました。

私は普段の様子を知らないのでもう説明できませんが、何よりも養正市営住宅という舞台が劇の空白に重なっているような感じがして、今回の『わたしのあいだ』はこの場所あつての演劇だと思いました。そこに私は引き込まれたように思います。

(龍谷大学文学部2回生 田中智里 / 10月22日観劇)



市営住宅はそこに暮らす人たちがいる生活空間。その敷地内で上演される「劇」はどんな作用を日常にもたらすのでしょうか。



京都国際舞台芸術祭フリンジ企画の支援事業でもあった本上演。劇を使えるものにする」という企画コンセプトを受けて自治会と演劇関係者が共催しました。

KYOTO EXPERIMENT 2013 フリンジ企画「使えるプログラム」支援事業
協力：養正市営住宅12棟自治会 / 左京西部いきいき市民活動センター / 龍谷大学 秋葉昌樹研究室
写真：ササキユイチ

今後のイベント / 参加募集

50歳からの演劇講座

演劇の稽古を気軽に体験して、楽しく元気になりましょう

◎1日体験コース(全1回2クラス)

日時：2月1日(土) 10:30~12:30 または 14:00~16:00

◎連続基礎コース(全7回3クラス)

日時：2月8日~3月22日(毎週土曜日) 10:30~12:30 または 14:00~16:00

2月10日~3月24日(毎週月曜日) 13:00~15:00

対象：50歳以上(経験不問)

定員：各クラス8名(6名以上で開講)

料金：1日体験コース1,000円 / 連続基礎コース6,500円

※両コース参加は7,200円

『人生のアルバム本』をつくりませんか？

押し入れにしまった写真、それはあなたの道のりをカタチに残す世界にひとつの宝物。そんな写真にまつわる思い出を語り、素敵なあなただけのアルバムに編集します。

内容：65歳以上の方を対象に、お持ちの写真8枚と思い出話でアルバムを作成します。

日時：お話の聞き取り

1月24日~2月14日(毎週金曜日・全4回) 11:00~12:00 または 13:00~14:00

文章の確認 2月28日(金) / お披露目会 3月14日(金)

対象：65歳以上

場所：田中神社 弘安殿および左京西部いきいき市民活動センター(予定)

定員：8名(4名以上で実施)

料金：無料

*こちらは、お話の聞き取りを一緒におこなう学生ボランティアも募集中です。

各種お申込み・お問い合わせは当センターまでご連絡ください

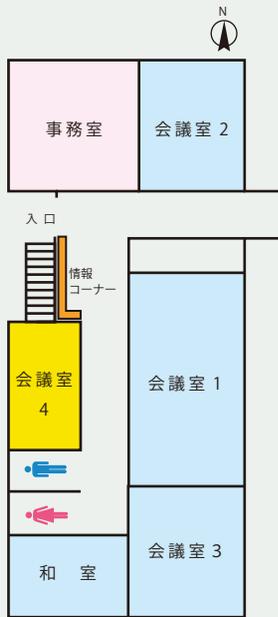


耐震工事を終え、新たなセンターに!!

耐震工事以前は倉庫として、耐震工事中は仮事務所として活躍していた会議室1の向かいの空間が新しく「会議室4」として生まれ変わります。

以前は料理室であった名残を受け、タイル張りの壁面は、今までの会議室とは一風変わった仕様となっています。大きさは和室と同じぐらい。縦長の形でホワイトボードも常設され、小さな会議やミーティング、文化教室にぴったり。少人数での使用に最適です。

プチ情報 新たに裁断機を導入しました。また、センターにあるコピー機は、カラーが20円(モノクロ10円)でご利用いただけます。オプション機能が充実のコピー機。コピー機と裁断機を上手に使って、オリジナル本や冊子づくりにご活用ください。



いっき
こらむ。

センター長・杉山準の

先日、この地域に新たに誕生した自治会の主催する「防災訓練」が行われ、当センターからも職員が参加してきました。今年、近くの市営住宅でばやがあり、私も消火に駆けつけるという出来事があったばかりなので、他人事ではありません。消火器や消火栓の扱いはもとより、万が一の時にそれらがどこにあるのかとか、避難経路をどうするのかなどは把握しておきたいものです。私たちのセンターでも、毎年防災訓練を階下の養正保育所さんと一緒に実施していますが、このセンターのことに限られています。しかし、先日のような火事が起こった時、見過ごすことはできませんから、対処する意識は職員の間でも持っておきたいと思っています。この地域には沢山のお年寄りが住んでいます。時間帯によっては、消火や救助活動に参加できる若い人も限られているでしょうし、身体が不自由な方や独居の方もいらっしゃいます。自治会等がこうした訓練を定期的に行って、住民の間で防災意識を高めることはとても大切なことだと改めて感じました。